

てんかん考える 市民フォーラム

市民フォーラム「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が21日、広島市東区の県医師会館であった。医師や県職員の計3人が、脳神経細胞の過剰な活動でけいれんなどを起こすてんかんの治療法などを語った。

広島大病院てんかんセンター(南区)の石川暢恒副センター長(48)は「小児期に発症したてんかんは、適切な治療により7、8割は治る」と強調した。飯田幸治センター長(56)は、重症の場合に脳内で発作を引き起こす場所を切除する治療法を

東区で医師ら治療法など紹介

参加者の質問に答えるセンター長たち



紹介。県地域共生社会推進課の増広典子課長(55)は「病気の有無にかかわらず、自分らしく生活できるまろくくりを日指9」と

オンラインを通じた視聴も含め、患者や家族たち約170人が聞いた。(佐藤弘毅)